古代の秘宝に息のむ

ツタンカーメン展で招待児童

ツタンカーメン王ゆかりの品々を展示する「ツタンカーメン展」（三月十七日～六月三日に天保山特設ギャラリー＝旧サントリーミュージアム＝で開催）を前に、二月二十六日、港区の子ども会が見学に招待されました。同展には一九二二年に同王の墓から発掘された副葬品約五十点を始め、エジプト考古学博物館が所蔵する古代エジプトの秘宝、計百二十二点が展示されます。この日は池島、磯路、弁天の各子ども会が順次訪れ、同展の日本側監修・廣田吉三郎学術委員から説明を受け、案内映画を観た後、館内を見学しました。

子どもたちは、①王の肝臓が保管されていた容器②王が使っていたガラスの枕③王の曾お婆さんの人型棺④王のお父さんの巨像―など初めて観る古代の秘宝に歓声を上げたり、ガイドスタッフに質問したり、「げぇ、血がついてる」「アホ、それは塗料の跡や」と言い合ったりしていました。

◆「不思議な気持ちに」

見学を終えた池島子ども会の小山優ちゃん（五年）、小山ならちゃん（三年）、川畑史吹君（一年）らは「ガラスの枕を見て不思議な気持ちになりました」「お父さんの像や曾お婆さんの人型棺は大きくてびっくりしました」などと興奮気味に感想を語り、引率の平山昭雄会長（四三）は「最近のDNA鑑定で解明されたことが多いのに驚きました。もし今発掘されていたら当時見過ごされた事が解ったかもしれません。残念でもあるし、今後への期待も感じます」と話していました。

古代エジプトの秘宝を見学する子どもたち

難波ワールドに浸る

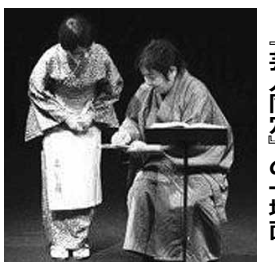
石炭倉庫で朗読劇、好評

直木賞作家・難波利三氏の小説を元にした朗読劇が二月に波除の石炭倉庫で演じられ、好評でした。あんがいおまる演出。あんがいおまる一座スタジオ公演。

穴倉のような生活から抜け出せない露天商一家の哀しさとたくましさを描いた『地虫』。時代遅れの芸人どうしの哀しくも温かな情の通い合いを綴った『芸人同穴』。どちらも大阪の下町を舞台に、そこに生きる人々の心情や町の風情が細やかに描き込まれた味わい深い短編。厳しい現実の中でも正直で温かな人付き合いが息づいていた時代の空気が胸を熱くしました。また、僅かな役者と小道具、最小限の動きで観る人の想像を掻き立てる演出は、さながら水墨画の趣。役者（あんがいおまる、ヨッシー原本）の円熟の芸と相俟って、難波ワールドをより深く堪能させてくれました。

『地虫』の一場面

綾羽一紀コレクション映画会『生きる』　黒澤明監督『生きる』の鑑賞と映画談議の集い。四月十四日（土）十五時半～十七時三十五分上映。その後飲食とお喋り。参加費千円。問合せ・申込みは会場の石炭倉庫（波除六―五―一八、JR弁天町から国道四三号を北進、安治川堤防突当り右。☎六五八一―〇六六四）へ。



『芸人同穴』の一場面

文化短信

●弁天町駅前のうたごえ喫茶が人気　昭和三十～四十年代に一世を風靡した歌声喫茶が弁天町駅前に復活、人気上昇中。店の名は「うたごえ倶楽部ねこじゃらし」。生伴奏で歌集を見ながら声を合わせている＝写真。雨の日に参加した幸栄子さん（七四）（弁天）は「もう何回も来ています。ここに歌声喫茶を見つけた時は嬉しくてたまりませんでした。六〇年安保闘争の頃、関西合唱団の『仕事の歌』に感動したのをきっかけに本町や梅田の歌声喫茶に通いました。一緒に声を合わせることでお友だちがたくさんできました」。〈下に広告〉

ライブ情報

●八幡屋出身のロックドラマー桐田勝治さん　四月十五日（日）に江坂ミューズ（☎六三八七―〇二〇三）でガーゴイルの「虹融合カウントダウン！」（詳細未定）。

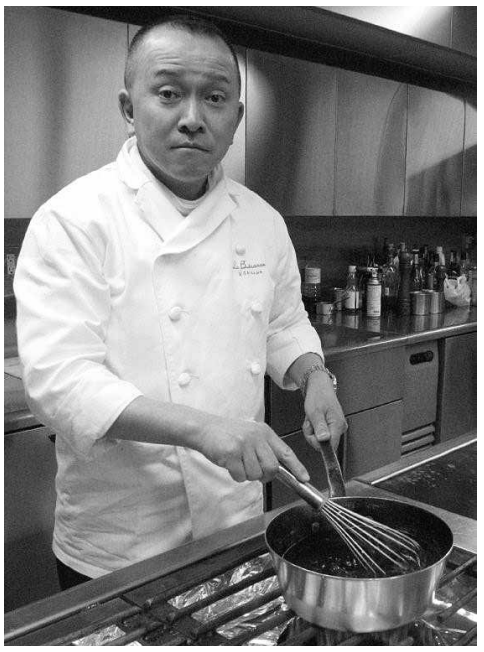
桐田勝治さん

●三先のフォーク歌手ペドロさん　三月十八日（日）二十時マチルダ（中央区宗右衛門町エイトビル八階）で開催のライブ出演▽毎月第一・三木曜二十時ザ・セラー（同区西心斎橋）▽毎月第三火曜二十時かつおの遊び場（同区宗右衛門町）▽毎月第二火曜二十時半ロージー（同区西心斎橋）。

ペドロさん

みなと区 突撃インタビュー 人物列伝

●――15



「親が食堂経営に忙しく、自分で料理を作っていたのが修業になったかも」と振り返る渋谷さん＝ラ・ベカスの調理場で

日本フレンチの最前線を走る――渋谷 圭紀さん（夕凪出身）

＜上＞

〝東の三国、西の渋谷〟とも評される日本フレンチの最高峰。その一人、渋谷圭紀さんをフランス料理店「ラ・ベカス」に訪ね、オーナーシェフ自らによるランチ（五二五〇円）をいただいてからお話を訊きました。

◇

◆赤ワインとフランスパン、鯵のエスカベッシュに南京のスープ、タイラギ貝と根菜のサラダ、カリフラワーととんぶりのソース、鰆のポワレ、オマール海老と菊菜のソース、茶美豚の肩ロース、デザートはブランマンジェ、そして珈琲―。普段は縁のない（笑）上質の時間を堪能できました

ありがとうございます。ワインは二〇〇八年ブルゴーニュ産。鯵は和歌山産で、「エスカベッシュ」とは素材（主に魚）を一度揚げてから、酢と香味野菜、スパイスで作ったマリネの液の中に漬け込む調理法、いわゆる南蛮漬けです。

タイラギ貝は岡山産。とんぶりは箒木の実。鰆は和歌山産で、鮮度が良いのでレアに焼きました。「ポワレ」とは、以前は蒸し焼きのような調理を指すことがほとんどでしたが、現在はフライパンで焼く調理を指すことが多いです。

「茶美豚」は鹿児島産のプレミアムポークで、茶の成分カテキンを飼料に加えるので、よく締まった肉質ながら、柔らかくて臭みが少なく、ビタミンEや旨味成分のイノシン酸を通常の豚より多く含んでいます。

「ブランマンジェ」は直訳すると「白い食べ物」で、フランスでは古くからあるデザートの一つ。アーモンドミルクに砂糖を加え、ゼラチンで固めて作ります。

◆もう一度食べたくなりました（笑）。ところで両親が夕凪で食堂を営んでおられたと聞きましたが―

昭和三十年代に「末吉」という大衆食堂を始め、今も続けています。子供の頃は両親が忙しかったため、食事は私と姉で作っていました。材料はそれこそ山ほど（笑）あったので、工夫して色々な料理を作ったものです。大阪万博の前後は特に店が忙しく、小中学校の夏休みなどは手伝いに明け暮れました。近くのたこ焼き屋やお好み焼き屋にもしょっちゅう出入りしました。そんなことが今に繋がる良い修業（笑）になったのかもしれません。

◆今の姿からは想像もできませんね（笑）。そんなバリバリの下町っ子が八〇年、高卒と同時に渡仏―

高校は進学校でしたが、料理は好きだったものの、勉強はそうでもなく、「大学へ進んでもしゃあないしなぁ」（笑）などと考えていたところ、たまたま父の知人にフランス人の画家兼画商の男性がいて、彼に「フランスへ行けたらええなぁ」と冗談半分に話したら、「ええで」（笑）。さっそく父が蓄えてくれていた大学用の学費を渡航費に充て、単身渡仏したのです。

◆正に人生を決めた幸運と決断でしたね。とはいえ料理以前にまず言葉の問題があったのでは？（つづく）

ルーツは夕凪の大衆食堂

人生決めた単独渡仏

しぶや・よしのり　一九六一年夕凪に誕生。田中小、港南中、桃山学院高を経て八〇年単身渡仏。ポール・ボキューズ氏ら現代フレンチの巨匠に師事し八九年帰国。翌年四ツ橋に仏料理店「ラ・ベカス」開店。〇五年現在地（高麗橋）へ移転。

子や孫に自分の人生をのこそう！

お話をききとり、冊子にしてお渡しします。

四国から上阪し、工場で働きながら地域スポーツの組織化に力を注いできました。このほど後継者にバトンタッチして第一線を退きましたが、この間の正負の教訓を地域の若い世代に伝え残しておきたいと、冊子にして頂きました。
（70代女性、総料金６万円）

400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

この広告切りとり持参の方は
ご飲食料金を10%引（3月末迄有効）
※他のサービス券との併用はできません※

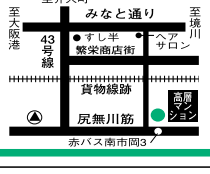
新メニュー好評！
●キムチ鍋 980円　●カキフライ 400円
●鶏皮ギョーザ 350円　●エビグラタン 600円
●鶏 唐 丼 480円　●ちゃんこ鍋 980円

★歓送迎会・各種宴会4名～50名様ご予約承り中★

市岡ビール工房
比良旅行

営業時間
平日　午後5時～11時
日祝　午後4時半～9時
定休　水曜日

お問合せ
南市岡3-6-26田中機械内
☎6581－3898



大好評受付中！
出前さんぱつ
月曜日にご自宅（外出困難な港区内の方）や施設まで出張
カット2,000円＋出張費1,000円（施設など2人以上なら無料）
ご来店料金は2,500円より
磯路2-1-21 りそな銀行前 床屋カンパニー ☎6577-5225

被災地農民を支援します。
反原発の声をあげよう！
ご協力下さる方はご連絡下さい
三里塚産直野菜の会
磯路2-3-9（三社神社そば）TEL.6572-0130

土曜の午後は うたごえ喫茶♪
生伴奏で声あわせ
弁天町駅前 ねこじゃらし
★毎週土曜日14:00～16:00
★お楽しみ料金:お1人1000円
★波除5-7-6 ☎6581-8760
JR弁天町北口前ローソンから北100m
歌えば心は青春！